



35
LEADING
COMPANY

美保テクノス 株式会社

快適なまちづくりを実現し 地域の夢を育む総合建設会社

2022年入社の新入社員11名が元気にジャンプ

地域の要望に応え 事業を拡大し まちづくりに貢献

「夢・まち・人づくり」をスロガに鳥取県西部、島根県東部を中心に展開する総合建設会社《美保テクノス株式会社》。道路や橋などの社会に不可欠なインフラを構築する《土木部》、公共施設・医療福祉施設・商業店舗などを建てる《建築部》、地盤改良や道路の維持業務を行うほか災害時の復旧活動を担う《ランドサポート事業部》、一般建築から戸建て住宅やリフォームまで幅広く手がける《総合建築部》の4部門を事業の柱として、さらに自社で《設計部》を有し2018年には《BIM戦略部》を新設した。

創業は1958年。戦後、美保飛行場（現在の米子空港の別名）から駐留米軍が引き揚げる際、基地で働いていた地元の人たちの雇用と振興対策として、米軍が保有していた建設機械を民間企業に払い下げ、機械リース業と土木工事業社を作るという国の方針が打ち出された。これを受けて初代社長・仁宮次夫氏が《美保テクノス》の前身となる《美保土建機械企業》を設立した。

60年代以降は5万坪の団地造成やBIMの推進があげられる。BIMは、建設の仕事そのものを変える革新的なもの、という。従来の2次元の図面を3次元モデルに置き換えて情報を可視化し、コストや工期の削減も見込まれている。BIM戦略部では維持管理も含む建設工程をデジタル空間で再現する「デジタルツイン」などの最新技術に対応。大阪市のBIMソリューションを提供する会社《応用技術株式会社》とも業務提携を結び「米子市をBIMの先進都市にしたい」と理想を掲げる。2023年5月に完成予定の新社屋はBIMを使って建設しており、今後、先進都市の拠点になりそうだ。また「実際に訪れたお客様が真似したいと思うような社屋にしたい」と省エネと創エネによるエネルギー削減を実現するZEB^{※2}を採用。その他にも一部の部屋のデザインを熊本大学と広島工業大学の学生が手がけるなど、新たな試みにあふれている。

人を育て、大切に作る会社

しかしどれほど技術が高度になっても、扱うのは人間だ。同社では人材獲得に力を入れ、鳥取大学では毎年出前インターンシップを実施。2022年の新入社員は11名と前年の2倍採用し、新入社員研修では初

「難工事」と称された岡山県境・明地峠の改修工事などにより地域の信頼度を高め、1976年、サンイン技術士センター株式会社（現・株式会社エスジーズ）を設立して建設コンサルタントにも進出。県内の工事だけでなく道路公園、下水道事業団、本州四国架橋公団などの国の事業、山陰地方の建設業者で初めて担うことを可能にした。時代ごとのニーズに応じて事業を展開し、現在、13社あるグループ企業は建設関連企業以外にITや介護サービス業なども連なり、社員数は自社だけで約200名、グループ全体では700名に及ぶ。

BIMの先進地を目指す

「どの仕事にも真面目に向き合う姿勢は創業以来受け継がれる企業文化。土木建築をベースとした（1）地域に必要とされる会社、（2）地域に貢献する会社、（3）社員が胸を張って働ける会社という3つの指針はこれからも変わりません。一方で、厳しい状況が続く建設業界にあって、お客様や地域の皆様に必要なとされる会社であり続けるために、DX化、ICT化や社員の働く環境の一層の整備を進めていきたい」と語るのは、野津健市代表取締役社長。その代表的な取り組みとして、全国でも一早く取り組み、力を入れている

の試みとして建築系部署での2カ月間のジョブローテーションによるオンボーディング研修を行った。「社員同士の仲が深まり、業務の流れを知れたことは大きい。思わぬ才能の発掘もありました」と確かな手ごたえを感じた様子だ。

社員が長く働けるように、福利厚生も充実も欠かせない。男性社員の育休では半年間取得した社員もいるほか、不妊治療に取り組み社員のための休暇制度も検討している。「結婚や出産で退職する時代ではありませんが、われわれも優秀な戦力を手放したくない。両立できる環境をこれからも整えていきたいです」と意欲的だ。建設業界全体でも、人材獲得は大きな課題であり、特に土木はインフラ整備や災害復旧など地域を支える存在だ。「今はICT化が進み、従来の土木のイメージとは大きく異なります。会社のありのままを情報発信し、共感してくれた人とともに地域に貢献していきたい」と野津社長は力強く呼びかける。



野津健市代表取締役社長。新社屋は52年ぶりの建て替えであり、数々の先進的なチャレンジを盛り込んでいる

※1 BIM(ビルド) Building Information Modeling / CIM(シム) Construction Information Moderling
※2 ZEB(ゼブ) Net Zero Energy Buildin

業種 総合建設業

事業内容 土木工事の施工、地盤改良工事の調査・設計・施工、建築工事の設計・施工、住宅及びリフォームの設計・施工など

創業 昭和33(1958)年7月30日

代表者 代表取締役社長 野津 健市

社員数 210名(男176名 女34名)

〒683-0037

鳥取県米子市昭和町25番地

TEL/0859-33-9211

https://www.miho.co.jp

● 松江営業所 ● 境港営業所

[グループ企業(美勇会)]

- (株) エスジーズ
- (株) TMS
- (株) ミテック
- (株) ニチラス
- 白鳥ケアサービス(株)
- メディカ・サポート(株)
- (株) 米子クックパートナー
- (株) 島根テクニカ
- (株) 大山生コン
- (株) リンクス
- 美保エステート(株)
- (株) スペック
- 大山電気(株)

求める人材像 Check!!

- ① 「凡事徹底」。挨拶・返事など、当たり前のことをきちんと行えて、すべてのことに感謝することが大切です。
- ② 自ら考え、行動できる人。自分でものを考えられる自律性が社会人には必要です。
- ③ 人間力(感じる力、気づく力、考える力、コミュニケーションする力)をもった人。
- ④ 元気で明るい人。社員育成のベースで大事なものは「元気で明るい」という素養です。

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0859-33-9211

採用直通 E-mail

recruit@miho.co.jp

資料請求

インターンシップ

会社見学

公式サイトはこちら



3DモデリングとAR/VRはどちらもメタバースを利用しているので親和性が高く、応用技術の開発が進んでいる。仕事では現場や建物への影響などを考慮して作業を進める必要があるという



BIMを生かして課題解決のソリューションを

鳥取大学には《ツナガルドボク》という学生団体があり、美保テクノスはそのパートナー企業でもある。吉井隼さんは学生時代に同団体のメンバーとして学生コンペの大会にも出場し、そのつながりで当時からBIM戦略部でアルバイトをしていた。「学生時代にBIMソフトのRevitを触った時は衝撃的でした。BIMは近い将来、業界で当たり前になるはず。誰が見てもわかりやすく、また美しいパースを作成できた時は面

白い」と目を輝かせる。

就職活動では場所にこだわらず、県外の複数の大企業説明会にも参加したが、BIMに関する質問でもっとも納得のいく答えを出したのが美保テクノスだった。現在は外部企業の2次元の図面を3次元化する作業などを担当。「一級建築士の資格を取得し、BIMをメインに自分にしかできないソリューションを提供したい」と夢に向かってまい進している。



BIM戦略部
吉井 隼さん
(2022年入社)

工程管理や、業者打ち合わせ、プラン変更、見積りなどが主な仕事。2級施工管理技士や2級建築士、インテリアコーディネーターなどの資格を段階的に取得することを目指している



女性目線を生かした現場管理を目指す

建設現場で女性の現場監督が増えつつある中、美保テクノスも2022年に2人の女性技術者が入社した。宮廻奈那子さんはその内のひとり。子どもの頃から建築に興味があり、テレビのリフォーム番組をきっかけに「こんな仕事があるんだ!」と住宅建築に憧れを持ったという。松江出身で県外の大学で住宅設計を学び、Uターンして美保テクノスに入社。「オンライン説明会で『人に恵まれていて仕事がしやすく、挑戦

ができる』という先輩の言葉が心に響きました」と振り返る。

現在は先輩社員と住宅・非住宅両方の現場管理を担い、一から建物を建てる面白さや技術や知識が増えることにやりがいを感じている。「いずれは女性目線を生かした仕事ができれば、目上の職人さんたちとも積極的にコミュニケーションをとって、どんな相談もしてもらえようになりたいです」とはつらつと笑う。



総合建築部
宮廻 奈那子さん
(2022年入社)

専門知識が求められる多様な業務の中で「学生時代の自分の勉強は大ざっぱだったんだなと感じます」と振り返る。疑問があれば先輩に相談し、自分でも調べて知識と技術を吸収している



相談がしやすく成長できる環境

米子工業高等専門学校で建築を学び専攻科に進んだ後、地元での就職を希望。「会社の規模が大きく、設計と施工の両方を手がけているので建設現場のことがわかるのは自分の成長にもつながる」と美保テクノスへ入社した。配属された設計部は若手からベテランがそろい、女性社員も多い職場。「皆さん専門知識が豊富で『わからないことは何でも聞いて』と言ってくれます」と相談がしやすい環境だ。現在は先

輩社員の補助をしながら仕事を覚えているが、申請や施主との打ち合わせなど、図面を引く以外の作業も様々あることに面白さを感じている。

現在目指しているのは一級建築士の資格取得。すでに学科試験には合格し、目標の実現は近い。「いずれは先輩のように、お客様とのすり合わせを上手にまとめられるようになりたい」と、上司や先輩社員から日々多くのことを学んでいる。



設計部
大下 歩さん
(2022年入社)

建築部は仲の良さが自慢。先輩に相談もしやすい。建設業界は休みが少ないと思われがちだが「休みはしっかりあり、休日出勤した時は代休が取れます」と公私ともに充実している



目標は広い視野を持って統括できる現場監督

広島工業大学で建築を学び、「公共事業などを手がける大きな会社のほうが勉強になるのでは」という身近な人からの勧めもあり美保テクノスに入社。現在は建築部で先輩社員とともに現場管理を行う。配属前の2カ月間のジョブローテーションでは設計やBIMも経験した。「勉強になった社内の知人が一気に増えました」と他部署との連携もとりやすいという。

現場では、ベテラン職人の仕事の速さに置いて行

かれないように、先々の工程を見据えた取組みが求められるというが「百聞は一見にしかずで、職人さんの仕事を見た方が頭に入る」と多くの学びを得ている。目下の目標は2級施工管理技士の資格取得。「複数の企業で請け負う大きな現場もあり、上司や先輩たちが全体を把握し、現場を取り仕切る姿に憧れます」と生き生きと語り、先輩社員を目標に一人前の技術者を目指している。



建築部
村田 晃希さん
(2022年入社)